

アジア、欧米、アフリカ…世界で轟く「日本」の名

太陽光発電とエネルギーの未来を考える

PVeye

2017
Vol.67

10

October

定価 1,940 円

羽ばたく日本勢 広がるPVワールド



パナソニック、滋賀工場3月閉鎖へ
パネルの国内生産から撤退

双日プラネット、米・小型風力大手の総代理店に 海外展開も視野

海外展開は太陽光発電に限らない。双日グループの双日プラネットは8月、米国の小型風力発電メーカー、エグザラスと日本総代理店契約を締結したが、日本だけでなく、東南アジアにも供給していく方針だ。

太陽光関連商材の販売を手掛けてきた双日プラネットが次なる商材として注目したのが、出力20kW未満の小型風力発電設備。FITによる買取り価格がkWhあたり55円と高めに設定されていることから、熱を帯びている市場だ。

同社が総代理店契約を交わしたエグザラスは1985年設立の小型風力発電メーカー。これまでに世界110ヵ国、9500基以上の販売実績を誇る。親会社はベルギーの化学メーカーで双日グループとも取引関係を持つラヴァゴである。

双日プラネットは、2016年3月にエグザラスと戦略的パートナーシップ契約を締結。同年11月には、双日インシュアランスと共同で業界初の小型風力総合保険を開発した。売電補償や法令変更対応費用補償、自然災害・盗難・賠償責任補償を合わせたもので、2年分を製品附帯する形で提供し

ている。

双日プラネットの機能材料本部電子材料部の服部輝夫副部長は、「リスクを最小化するために独自保険も開発した。それに我々は単に販売するだけでなく、風車配置の確認、施工指導などの支援も行う」とし、これまでに日本国内で約80基を設置。17年8月には日本総代理店契約を締結した。

製品の特徴の一つは、高い耐久性だ。同社の10kW級の機種は日本海事協会の小型風車認証を取得しているが、風車クラスは一般的なクラスⅢではなく、より強風地域で利用できるクラスⅡ。10年の製品保証も付与されている。

エグザラスのフランク・グレコ社長は、「可動部が2ヵ所しかないなど、シンプルな構造。故障リスクや火災リスクが少なく、設計寿命は20年だ」としたうえで、「長きにわたる経験や実績、親会社含めた財務健全性も我々の強



エグザラスのフランク・グレコ社長

みだ」と語る。

エグザラスは日本支社を東京に設立しているほか、日本向けのシステムに山洋電気製のパワーコンディショナを採用した。「日本は力を注ぐべき市場の一つ。ベトナムやフィリピン、英国などと同様、現地に合った形にカスタマイズした」（グレコ社長）。

そんな両社の協力関係は日本にとどまらない。フィリピンやベトナム、シンガポールなどアジアにおける双日グループの海外拠点と連携し、日系企業の工場などに小型風力と太陽光発電、蓄電池をセットで導入提案していくというのだ。

世界ではビルや携帯電話基地局の屋上などに小型風力が設置される事例も増えており、可能性は広がっている。エグザラスのグレコ社長が「いまの日本は売電中心だが、いずれ独立電源や自家消費需要も生まれるはずだ」と期待すれば、双日プラネットの服部副部長は「小型風力と太陽光発電に蓄電池も合わせた“トライブリッド”を海外だけでなく、日本でも提案していければ」と意気込む。



エグザラスの小型風力発電設備